

プリンセスはあなたです。

涙を元気に変える魔法を
知っているから。



A LITTLE PRINCESS

リトル・プリンセス

WARNER BROS. PRESENTS

A MARK JOHNSON/BALTIMORE PICTURES PRODUCTION AN ALFONSO CUARÓN FILM "A LITTLE PRINCESS" ELEANOR BRON LIAM CUNNINGHAM

AND INTRODUCING LIESEL MATTHEWS EDITED BY STEVEN WEISBERG PRODUCTION DESIGNER BOWELCH DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY EMMANUEL LUBEZKI

MUSIC BY PATRICK DOYLE EXECUTIVE PRODUCERS ALAN C. BLOMQUIST AND AMY EPHRON SCREENPLAY BY RICHARD LAGRAVENESE AND ELIZABETH CHANDLER

BASED ON THE NOVEL BY FRANCES HODGSON BURNETT PRODUCED BY MARK JOHNSON DIRECTED BY ALFONSO CUARÓN

オリジナル・サウンドトラック: SLCレコード

配給: ワナー・ブラザーズ映画

WARNER BROS. FAMILY ENTERTAINMENT
A TIME WARNER COMPANY



「まだ お姫様の気分でのいるの?」

「あたしは、お姫様よ。女の子だもの。」

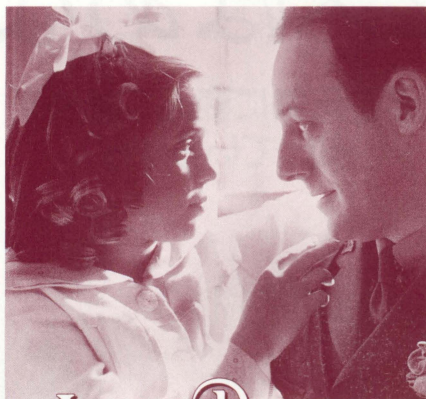
たとえホロを着ていても

不細工で年をとっていても

女はみんながお姫様だわ。

あなただってそうでしょう?

「忘れたの?」



A LITTLE PRINCESS

リトル・プリンセス

この映画を観ることで、女性はずべて、かけがえない存在、プリンセスなんだって、誇りを持ってほしいですね。

大人のあなたにこそ、ぜひ観て欲しい映画です。

■山口智子さん(女優)

何度も何度も観たくなる傑作!

■グッド・モーニング・アメリカ

喜びと勇気を与えてくれる素晴らしい作品。

■ニューヨーク・タイムズ紙

《都会のプリンセスたちへ》

「忘れてしまったの? 私たちみんなプリンセスなのよ!」
——みずほらしい服を着たわずか10歳の少女が、あったけの誇りをふりしぼって叫んだ言葉が、アメリカ中の女性たちの心を打った。少女の名はセーラ。彼女が主人公の



映画『リトル・プリンセス』は、アメリカで6月に公開されるや女性たちの圧倒的な支持を受け、異例の再ロードショーが決定した。そしてこの冬、お正月映画としていよいよ日本に上陸する。

物語は、母親を亡くし、父の深い愛情を受けて幸福に育ってきた少女セーラ(リーセル・マシューズ)がニューヨークの厳格な寄宿学校に転入してるところから始まる。父の任地インドで自由に暮らしてきたセーラは天真爛漫で誰にでもハッキリものを言う性格は、独裁者のような女校長や規則でがんじがらめに縛られたクラスメートたちの間にセンセーションを巻き起こす。

しかし、父が戦死したという知らせが届き、一文無しの孤児となったセーラは、屋根裏部屋に追いやられ、下働きとして校長の屈辱的な仕打ちを受ける。愛する父を失った悲しみに押しつぶされそうになりながらも、セーラはけっして誇りを失わず、自分の中に眠っているはずの力を信じて、運命を切り開いていく…。



10歳の少女を主人公とするこの映画が大人の女性たちの心を深くとらえたのは、彼女の生き方に私たち女性が求めている新しさがあったから。彼女は、どんな女性にも、大切にされ、愛される資格があることを知っていた。自分自身の価値を知っていたからこそ、ほんとうのプライドを捨てずに生きていくことができたのだ。

セーラの言う“プリンセス”とは、お金持ちで美しく、何でも手に入る女性のことではない。どんなに辛い時も、生まれもった“幸福になる力”を信じ、自分らしく生きようという意志を捨てない女性のことだ。選ばれた一握りの女性だけでなく、すべての女性に、自分を大切にする義務と、誰からも尊重される権利があることを、ひとりの少女の瞳に宿った強い意志の輝きが教えてくれる。

何もかもうまくいかなくて、イヤな女になってしまいそうな時、さびしさに負けて、自分自身の手で戦うことをあきら



めそうになった時……。この映画が、本当の自分が誰なのかを、きっと思い出させてくれる。そして、「私には幸福になる資格があるんだ!」というポジティブなエネルギーを与えてくれるに違いない。

あなたは、プリンセス。
涙を元気に変える力を持って生まれてきた。

12月16日(土)ゆめお正月ロードショー!
特別ご鑑賞券(最¥1500/学¥1300/小¥2800)発売中

地下鉄東銀座駅下車・駐車場完備

東

03(3541)2711

関内駅北口・横浜ピカデリー前

劇

横浜シネマリン

045(261)1007